

天皇陛下誕生日祝賀会における「柔道の形」演武及び実技指導 —インドネシアからの報告—

濱田初幸*

I. はじめに

在インドネシア日本国大使館からの招聘を受け、首都ジャカルタにおいて「柔道の形演武」並びに「柔道指導講習会」を実施した。

日本国天皇陛下誕生日（2014年12月23日）に先立ち、在インドネシア日本国大使館及び東南アジア諸国連合（Association of South East Asian Nations, 以下「ASEAN」と略す）日本代表部が主催する天皇陛下誕生日祝賀会開催に当たり、文化事業として講道館柔道「古式の形」¹⁰⁾、^{注1}の演武依頼があった。同時に、「柔道フェア in ジャカルタ」において現地柔道家への講義及び実技指導の依頼を受けた。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本政府がスポーツをテーマにしたプロジェクトを展開していくことから、その一環として、在インドネシア日本国大使館等が日本の伝統文化である武道^{7) 9)}を通し、日本とインドネシアの交流促進を図る目的で企画した。今回のプロジェクトのコンセプトは「日本の伝統と現代の融合」をテーマとし、我が国発祥の武道と、政府が推進するクールジャパンの代表格であるポップカルチャーのアイドルグループ、「AKB48」のインドネシア版、「JKT48」とコラボさせる事業であった。併せて、同国柔道の競技力向上を目的とした講習会が開催された。

II. 日程

2014年12月6日～11日 / タイムテーブルは表1の通り

III. 「柔道フェア in ジャカルタ」での指導内容

ジャカルタ郊外にあるクラバ・ガディン道場にて、ジャカルタ州強化選手やジャカルタジャパン柔道クラブ（JJJC）のメンバーら約80人を対象に指導を行った。

ジャカルタの選手たちの大きな目標は、シーゲームズ（South East Asian Games）²⁾と呼ばれる2年に一度開催されるASEANの大会でメダルを獲得することである。講習会場2階の柔道場横には隣接して宿泊施設が完備され、同国代表選手の強化拠点にもなっている。（写真1）



写真 1

表1 タイムテーブル

	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日
午前		ジャカルタ着, ミーティング	ミーティング, 古式の形・稽古	ミーティング, 古式の形・稽古	大使訪問
午後	日本出国	柔道フェア in ジャカルタにて指導	柔道関係者・愛媛県 人会懇親会	天皇誕生日祝賀会 古式の形 演武	帰国

* 鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系

講義では、ドーピングに関する講話を行った。ジャカルタは1981年に開催された「アジア柔道選手権」で優勝した地⁸⁾であり、その際にドーピング検査³⁾で大変苦い思いをしたエピソードを紹介し、緊張を和らげることからスタートした。同大会に参加した日本選手団の数名が脱水症状に陥り体調を壊したことなど、当時の体験を交え、体調管理方法、水分補給の重要性、減量に関する講義を行った。

実技指導では、「背負投」を解説した。「背負投」を習得するための前段階として、基本的足捌きである「作り」を身に付ける必要があることから、独自の指導法である「トライアングルセオリー（三角形理論）」^{注2}を紹介、この技をマスターする方法として「大内刈」から稽古すれば習得が早くなることを伝授した¹⁾。

「大内刈」を反復した後に、「背負投」の両手の動作について説明を行った。特に手の動作の中で「釣手」の使い方を丁寧に解説した。この動作は伝え方が難解で動きも複雑なことから、一般的に指導書や講習会においては詳細な説明を避ける傾向が見受けられるが、本講習会では十分時間をかけて解説した。

指導ポイントを以下に要約。

- ①取（投げる者）は「釣手」になる肘を折りたたむ際に、相手の柔道衣を釣手の小指から巻き付け、手首全体を道衣で覆うように包み込み、取の胸の前に引き出し、脇を締める（「釣手」の肘は垂直に立てる。相手の腋下、横方向になるように肘を入れない）。(写真2)



写真 2

- ②「引手」は手首を返ししながら前方斜め上方、「釣手」と同じ方向に引き出し、受（投げられる者）を真前（または斜め前）に崩す。その際に、肘・肩の力を抜き、脱力すること。

- ③膝を最大限まで屈曲させ、受の股下に飛び込んで重心下に入り込む。屈曲させた膝を一気に伸展させ首、肩を斜めに回転させ、両手を下方に引き、肩口から前方足元近くに投げる⁶⁾。

この一連の動作を身に付けるためには単調な運動の繰り返しである「打ち込み（掛かり練習）」を行わなければならない。

「背負投」一つをとっても、体型などの違いによって掛け方が異なるが、この方法は小さな者が大きな者を投げるのに適していて、柔道の醍醐味である「柔能く剛を制する」の理論が成り立つことを説明。(写真3)



写真 3

次に、受が横に移動して防御した際の技法について以下に要約。

- ①受を背中に担ぎ（横に移動して防御したため、不十分な担ぎになっている）、膝を深く屈曲させた低い姿勢から両膝を一気に伸ばしながら、足裏で畳を蹴りながら走るように前進する。
- ②首、肩を斜めに回転しながら、両手を下方に引き脇を締め、体に密着させる。
- ③投げ終わると同時に、その勢いで倒れた受を飛び越えて「前回り受身」を行う。

この「背負投」の方法については、初めて指導を受けるとのこと、最初は上手く投げられる者はいなかったが、修正点を指摘する内に、徐々に向上が見られ、ポイントである「脱力」して瞬間的に受の重心の下に飛び込むことができる選手が見

られるようになった。約束練習ではあるが、格段の向上が見られ、切れ味鋭い「背負投」を散見することができた。現地指導者がこの指導方法に強い関心を示し、これから継続して稽古の中に導入すると意気込んでいた。講習会終了後に地区連盟会長から感謝状をいただいた。(写真4, 5, 6, 7) (新聞記事1, 2)



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7



新聞記事 1

Roddick made honorary member of Wimbledon

LONDON: Andy Roddick has been made an honorary member of the All England Club, according to former British number one Tim Henman.

The American, three times a runner-up at the grand slam tournament, visited the grasscourt club on Friday for "a spot of tea" with Henman while in London competing at the Statool Masters event at the Royal Albert Hall.

"I was able to take him to Wimbledon a couple of days ago because he's being made an honorary member, which he was so excited about, having been a three-time finalist," Henman said in an interview with the *Tennis Podcast*.

Honorary membership of the elite club usually requires a Wimbledon title, but Henman said former world number one Roddick, who quit in 2012 aged 30 deserved the accolade.

"If you win the tournament you become a member automatically but I think with his impact in that event and his rapport with the British crowd it was felt that it would be a really nice gesture," Henman added.

"He was given a few gifts, one of them being a club tie, which is completely useless because he doesn't know how to tie a tie."

Roddick, runner-up in 2004, 2005 and 2009, is making his first appearance on the seniors tour this week and on Saturday reached the final when he beat 2002 Wimbledon semi-finalist Xavier Malisse 6-4, 6-2.

He will play fellow debutant Fernando Gonzalez at the Royal Albert Hall after he overcame Henman 6-4, 2-6, 10-6. — Reuters

This is how you do it!



Judo athlete Hatsuyuki Hamada of Japan (right) demonstrates a judo routine during a coaching clinic for the athletes of the Jakarta Judo Federation at the Jakarta Judo studio in Kelapa Gading, North Jakarta on Sunday. The coaching clinic is part of the Jakarta Judo Fair. 12/8/2014 by Kaito Post

新聞記事 2

Ⅳ. 祝賀会・「古式の形」演武

会場のホテル・ムリア周辺及びホテル内はインドネシア政府高官をはじめ各界の要人が招待されていることから、厳重な警備態勢が敷かれ、武装した軍隊や警察官が多数配置され緊張感が漂っていた。

招待者はユスフ・カラ副大統領、チャフヨ内相など各省大臣を含め、インドネシアの正装である「バティック」やタキシード姿の男性や和装、洋装でドレスアップした女性など約800名が出席し、天皇誕生日を祝賀した。フロアー会場は国際色豊かな豪華で華やかな社交界の様相を呈した。(新聞記事 3)



新聞記事 3

演武場は、高台の特設ステージに柔道畳約25枚が敷かれていた。取は筆者、受は仙石常雄八段で講道館柔道「古式の形」の演武を行った。

仙石氏は、10年前に警察庁を退職後直ちに柔道指導のためにインドネシアに渡航、2007年にはバリ島に自費を投じて建立した柔道場（Sengoku International Judo Hall）を所有し、ボランティア活動として現地の青少年に無償で指導している。日本在住時は警視庁及び警察大学の術科教養部に所属、主に形や護身術を各都道府県警察から選抜された柔道専門員に教授する傍ら、講道館指導員として活動された高名な柔道家である。講道館から出版されている指導用ビデオでも模範演武者

として登場する形の権威者である。仙石氏と形を演武できることは大変名誉なことであり、貴重な経験となった。

形の大家である仙石氏にとっても、柔道衣の上に本学から持参した小具足（完全装備した戦場武士が甲冑などを脱いだ軽武装姿）を纏っての形は初めての経験とのことであった。大勢の招待者も初めて見る武士姿の装束に興味津々で、入場から演武終了まで注視して見入っていた様子が窺えた。仙石氏の受の巧みさから、往時の武士を思わせる重厚で深みのある形を披露することができ、多くの方々から労いの言葉をいただいた。(写真 8, 9)



写真 8



写真 9

「柔道形」の後には、ジャカルタ在住の剣道家による「日本剣道形」、「居合道」が演武され、凛とした紋付着物姿の剣士が繰り出す日本刀による攻防の迫力に招待者は魅了されていた。(写真 10)

最後にインドネシアのアイドルグループ「JKT48」が登壇、明るく艶やかな衣装で軽快なリズムに乗ったダンスに合わせて日本でもよく歌

われるヒット曲の数々が披露され、万雷の拍手喝采を浴びた。



写真 10

招待者は天皇陛下誕生日記念祝賀会のコンセプトである「日本の伝統と現代の融合」を目の当たりにし、古に思いを馳せた後は、現代カルチャーに触れ「日本人」とは、その「矜持」とは、「和の精神」とは、それぞれが個々の立場で再考する機会を得たのではなからうか。武道とモダン音楽を鑑賞した後は、演者たちも交えて歓談に花が咲く光景に至る所で見られ盛会の様相が窺えた。

国際交流の事業で、小具足を纏った戦場武士の徒手での攻防を表現する「古式の形」や日本刀による居合道など「武道演武」は、日本文化の発信であり、我が国への興味関心・理解を深めることに繋がり、今日的意義があると考えます。

V. 最後に

海外で開催された天皇誕生日祝賀会において、国際貢献に資すると考えられる日本武道の一端を披露する大役を無事終えることができ、安堵している。

グローバル化社会の広がりから、我が国とインドネシアを含めた ASEAN との関係性は政治、経済、文化等において一層親密化し強化されていくことが予測される。そうした時期に国家的プロジェクトに参画でき、貴重な経験を得ることができた。武道の国際化に拍車がかかり「日本精神を忘れた武道」、「柔道から JUDO へ」⁴⁾などと揶揄

される中で、今回の事業は武道の文化性が理解され、受容されていることの証左を示すものであると捉えている。

海外での指導を行う度、我が国伝承の武道が国際的な文化交流・理解において重要な役割を果たすことを再認識させられる。21世紀のグローバル社会において、国立唯一の武道課程に在籍する本学学生の武道分野における牽引者としての期待感は、一層高まることが予測される。その使命を果たすためにも、スペシャリストとして武道に関する歴史、文化的意義、思想、哲学等を学びつつ、形を含めた高度な技能の修得が求められる。今後一層、武道課程の使命・存在意義は高まるであろう。その期待に応え、国際社会に貢献する人材育成を図る大学教育の必要性を実感させられた。

このような機会を与えてくれた谷崎泰明インドネシア大使、相星孝一 ASEAN 大使をはじめとする関係各位、また、渡航を快諾してくれた福永哲夫学長並びに本学関係各位に対して心から感謝の意を申し述べて、稿を閉じる。

注 1)

「古式の形」とは、講道館柔道創始者である嘉納治五郎師範(1860-1938)⁵⁾が柔術を修行された折、「起倒流の形」が理論的にも優れていることから深く極められ、後世に残すものとして新たに「古式の形」と名付け、講道館柔道の形の一つに加えられたものである。

「古式の形」の源流である「起倒流」は、1637年(寛永14年・徳川3代将軍家光の時代)に、茨城又左衛門俊房、専斎と号した柔術家が創設した武術である。「起倒流」は「起倒流乱」・「起倒流組討」・「起倒流柔道」と名称が変遷する中で、江戸時代中期には、門弟3千人を抱え、天下に名を馳せる柔術として明治維新後も継承された。

嘉納師範は、1881年(明治14年)、起倒流柔術師範・飯久保恒年に入門し、数年後に免許皆伝を伝授された。その際に修得した形が概ね受け継がれ、現在では6段以上の高段者や各国指導者など

世界中の柔道エキスパートが、嘉納師範が伝えたこの高度な技能、高邁な思想を包含した「古式の形」を学びながら修行に励んでいる。

この形は、「表」14本、「裏」7本、合計21本の投技で構成され「表」は心を平静にして荘重優雅に、「裏」は敏速果敢に動作し、柔道における攻防の理合いを現した深遠な形である。

往時の武士は、30kg程度の鎧兜を身に付け、戦場において戦ったといわれているが、その重量を背負った攻防のため、一見緩慢な動作に見て取れる。また、礼法に関しても座礼の際、通常では見られない独特の所作で行われることも特徴の一つであり、古の武士の作法を再現した動作も見られる。

これらはいずれも、その昔「甲冑」を身に着けた武士が戦場において「弓」「槍」「刀」等の武器を捨て、素手での組討となったときの「体捌き」「崩し」「技の仕掛け」の攻防をわかりやすく且つ理論的に構築し、投技の際の極意を表現しているもので、技術的普遍性を知ることができる。

注 2)

トライアングルセオリー (三角形理論)

独自の理論によるもので、この理論による足捌きの動作が基本的な投技から高度な技を習得するための基本技術になる。実践で用いられる「大内刈」「大腰」「背負投」「内股」「体落」などを掛ける際の足捌きに直結する。

- ①受は自然本体に立ち（両足の間隔は約50cm程度）、取と組む（右組での解説）。受の両足を底辺とした正三角形をイメージする。
- ②右組から取の一步目（踏み込み足＝右足）は、イメージした正三角形の頂点の10cm程度左内側に踏み込む。重心は右足親指にかけ、膝を曲げる（屈曲した右膝頭で、自分の右足指先が上方から見えない程度）。
- ③軸足（寄せ足＝左足）は右足踵内側（正三角形の頂点内側・受の体の中心）に素早く引き寄せ、爪先五指で強く畳を突き、軸足を安定させ

る（両足が三角形の頂点の内側、一点に集中させる）。

※上記①②③の足捌き（トライアングルセオリー）から大内刈を掛ける場合は次の動作で行う。

- ④取の引手は強く引き付け左体側に密着させ、釣手の右肘を90度に曲げ、拳を立て受の重心が上方に釣り上げるように崩す。受の上体を密着させ、ロックする。

その際に肩・肘を脱力、釣手、引手、踏み込み足、寄せ足の動作②③④を協応させスピーディに行い、腰から入り、上体を引きつけ強く打突させる。

- ⑤刈足の右足爪先に力を入れて、内側に屈曲させ、畳からやや浮かせた位置から半円、扇を描くように素早く刈る。

- ⑥腰を深く入れ、首、腰を右方向に捻りながら、刈足を作用させると同時に釣手を前方に突き放し左後隅に投げる（引手は上方に浮かないように体側にロックする）。

この技術習得効果を高めるための指導用教材として、上述の動作を簡潔に文言化、足捌きをイラストで示したシート、「トライアングルシート」を公開している。（写真11）



写真 11

参考文献

- 1) 濱田初幸(2011), 柔道を探る, 国立大学法人
鹿屋体育大学, 新生社印刷, pp.33-34.
- 2) 濱田初幸(2004), 国際交流の一環としての
柔道指導方法について ―ベトナム―オリン
ピックソリダリティー・テクニカルコース―
の指導を経て―, 鹿屋体育大学学術研究紀要,
31号, p66.
- 3) 柔道大辞典編集委員会(1999), 柔道大辞典, アテ
ネ書房, p545.
- 4) 松原隆一郎(2013), 武道は教育でありうるか,
イースト・プレス, p66.
- 5) 村田直樹(2007), 武道の近代化・嘉納治五郎
師範の教え, 日本武道協議会設立30周年記念
日本の武道, 財団法人 日本武道館, 三友社,
pp.45-48.
- 6) 佐藤宣践(1999), 体型 タイプ G 濱田初幸 右
背負投 全身の力を利用した鋭い背負投, 柔
道技の大百科 第1巻, ベースボール・マガジ
ン社, pp.75-81.
- 7) 下村博文, 高村正彦(2014), 祝辞, 公益財団法
人 日本武道館 開館五十周年 記念式典 日本
武道祭, 公益財団法人 日本武道館, pp.4-5.
- 8) 竹内善徳(1981), アジア柔道選手権大会 男子
の部, 柔道 講道館, 52, 9, pp.7-8.
- 9) 田中守(2005), 武道 過去・現在・未来, 財団
法人 日本武道館, ベースボール・マガジン社,
p38.
- 10) (財)講道館(2008), 五の形・古式の形, 亀井印
刷, pp.16-69.